

さつま町内の20区公民館が取り組んで特色ある活動、イベントなどを紹介しています。

平川区は、さつま町市街地から国道328号を約6km北上した地点にあり、紫尾山のふもと出水市との境に位置し、4集落で構成されています。

農業が主産業で水稲における受託組織が確立され、低コスト農業に取り組んでいます。また、鹿児島ブランドのイチゴ「さつまとよのか」の産地でもあり、養鶏をはじめ、肉用牛や養豚も盛んです。

平成6年にオープンした新農村地域定住促進事業による「平川郷」を拠点として、農村農業の活性化に一体となって取り組んでいます。なかでも、生産物直売所「ひらかわ屋」では、地元農産物をはじめ各種の手づくり加工品を直売しており、地域経済と農業の振興に寄与しています。



館長 原田紀史さん

◆人口 876人

◆世帯数 342世帯

◆公民会数 4公民会

地域活動



老人クラブでは、子どもとのふれあい活動の一環として平川小学校の学校農園を活用して、田植え、かかし作り、稲刈り、脱穀までの作業を児童と一緒にを行っています。特に脱穀では、足踏み脱穀機など昔の道具を使用しています。

イベント



平川郷まつりは12回目を迎え、毎年、鹿児島市をはじめ、町内外から大勢の方々が訪れます。特にイノシシの肉が入った平川1,000人鍋は、毎回長蛇の列が出るほど盛況です。

景勝地



紫尾山の中腹にある千尋滝は岩肌を伝って3つの滝となって流れ落ちます。落差は全長76mにおよびます。周辺は広葉樹林の深い緑に囲まれ、四季折々の自然の風景が楽しめます。

伝統的行事



15夜行事や鬼火焚き、もぐら打ち、6月灯などの伝統的行事が保存伝承されており、毎年、集落全体の行事として取り組んでいます。また、伝統芸能はタカ踊りや棒おどり、鎌手おどりなど5つの芸能が保存され、毎年平川郷まつりで、披露されています。